

2018年10月31日

次世代対応医学物理士短期臨床研修コースを修了して
新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院 捧 俊和

新潟県南魚沼市浦佐。

米と酒と雪という新潟のイメージそのままの土地です。この地域には 2015 年まで IMRT どころかコンベンショナルな放射線治療もおこなえる病院すらありませんでした。新潟県の場合、IMRT をおこなえる施設が地域の中核都市に集中しています。そのため浦佐のような地域では首都圏に比べ IMRT を簡単に選択することができません。そこで自身のスキルアップだけではなく今まで選択できなかった地域で IMRT ができるようになるための知識と技術を得るという目的で 2018 年の 4 月から 9 月までの 6 ヶ月間、新潟大学医歯学総合病院にて次世代対応医学物理士短期臨床研修コースを受講させていただきました。

研修内容としては基本的には丸々1日、治療計画装置と格闘する形になります。輪郭描出から計画の評価方法、Patient QA まで一連の流れを学ぶことができます。受講者の希望を適宜取り入れていただき、受講者ごとにカスタマイズした研修内容を組み立てることが可能です。

今回の研修で私が感じた次世代対応医学物理士短期臨床研修コースの魅力を 3 点ほど述べさせていただきます。

まず 1 点目は大学病院で研修がおこなわれる点です。大学病院なので市中病院では触れることのない様々な症例があります。検討会への参加することも可能で症例に対する知識を得ることができます。IMRT 治療計画の側面を見ても一般的に行われるスキルだけではなく、イレギュラーな症例への対応策・考え方を学ぶことができるのは大きいと考えます。

2 点目は研修期間の長さです。

IMRT に関わる様々な研修は 1 日で開催されるものからレジデントコースの年単位でおこなうものがありますが、6 ヶ月という期間はあまり見られないと思います。社会に出てから医学物理士の資格を取得した方などが働きながらしっかりと学びなおすには非常に効果的だと思います。どうしても職場の理解が必要になり、ハードルは高いかもしれません。ただそれ以上に得られるものは十分にあると感じます。

3 点目は研修内容評価のフィードバックです。

評価体制がしっかりしていて毎回の研修後にその日の評価を受講者にフィードバックしていただけます。何ができないのか、何が足りないのかを具体的に把握することが可能です。そして最初はできなくても徐々に出来るようになることを実感することもできるのでモチベーションも上がります。最後に行われる口頭試験についてもフィードバックがあるので6ヶ月の成果として確認することができます。

以上が私の感じた次世代対応医学物理士短期臨床研修コースの魅力です。

途中でこの研修の宣伝のようになってしまいましたが、この研修での6ヶ月は非常に有意義で充実したもので間違いありませんでした。研修を通じて得た知識や技術をしっかり自分自身で消化し、新潟県に還元していきたいと思います。

最後になりましたがご多忙の中、ご指導いただきました医学物理士の宇都宮悟先生、棚邊哲史先生、研修の場を与えていただいた腫瘍放射線医学分野教授の青山英史先生をはじめスタッフの皆様、そして快く研修に送り出していただいた魚沼基幹病院放射線技術科スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。